

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第26週（6月27日～7月3日）

## 今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

#### 「RSウイルス感染症 急増」

第26週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,889例であり、前週比11.3%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.21、2.67、0.63、0.30、0.29である。

感染性胃腸炎は前週比7%減の1,021例で、南河内9.69、三島6.88、中河内6.85、大阪市南部6.00、北河内5.72であった。

RSウイルス感染症は98%増の524例で、大阪市北部8.86、南河内4.31、豊能3.52である。

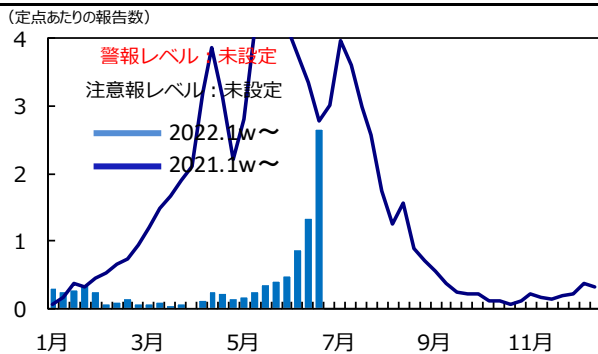
咽頭結膜熱は11%減の123例で、大阪市南部1.72、大阪市北部0.93、南河内0.75であった。

手足口病は136%増の59例で、泉州0.55、堺市0.53、大阪市西部0.40である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は25%減の57例で、中河内0.80、大阪市南部0.56、大阪市北部0.43であった。

RSウイルス感染症は全ブロックで増加しており、今後の動向に注意が必要である。

#### RSウイルス感染症



#### 感染性胃腸炎

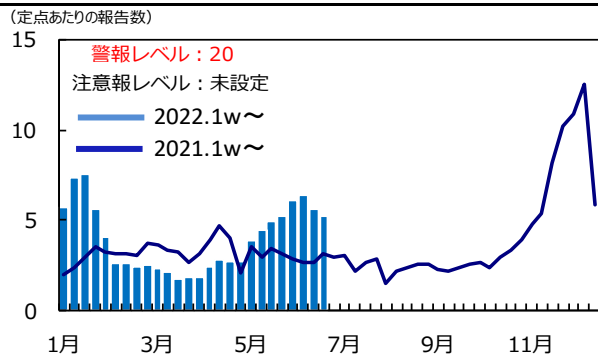


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第26週6月27日～7月3日）

第26週の順位	第25週の順位	感染症	2022年 第26週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第26週の 定点あたり 報告数	2022年第26週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.21	7%減	3.10	1歳_21%
2	2	RSウイルス感染症	2.67	98%増	2.78	1歳_29%
3	3	咽頭結膜熱	0.63	11%減	0.44	1歳_36%
4	6	手足口病	0.30	136%増	0.06	1歳_36%
5	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.29	25%減	0.43	3歳_18%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

## 第26週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

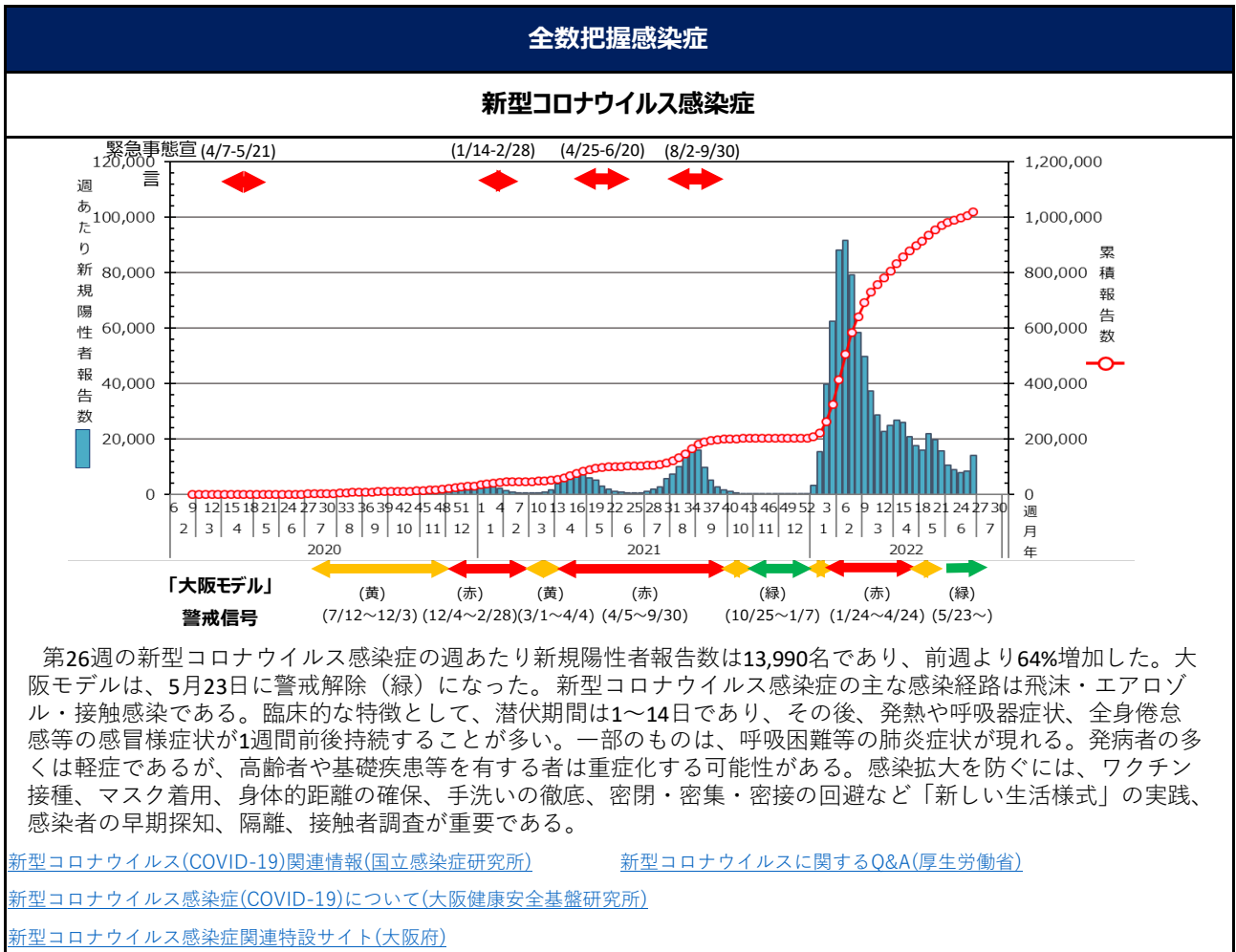


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第26週6月27日～7月3日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	4			2				1	1	47
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1				1				1
	日本紅斑熱	1	1							4
	レジオネラ症 (肺炎型) (ポンティアック熱型)	5	1			1		1	1	39
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	1	2	1					52
	水痘（入院例）	1	1							10
	梅毒	22	2	1	1				18	714
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1							1	11
新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症	13,990	2020年1月以降累計 1,020,866								
結核 (2022年5月分)	結核 新登録患者数：96名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 32名) (府内累積報告数 435名、内 肺・喀痰塗抹陽性 156名)									

(2022年7月5日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。